

ごみがセメントに！セメントがわたしたちの街に！



山口エコテック株式会社

皆さん、“燃えるごみ”は燃やした後、どうなるか知っていますか？今年、設立20周年を迎えた「山口エコテック㈱」。“家庭ごみをセメントに変える”ための処理をしています。社長の吉岡さんにお話を伺いました。取材・編集/大下

【1人500g！】

山口県は1997年ごみ処理対策協議会を設立し、老朽化したごみ焼却炉を統合し、処理の広域化、効率化、ダイオキシン類対策を進めていました。ごみ焼却灰のセメント原料化の安全性と経済性が確認され、やまぐちエコタウン基本構想の中核として2001年「山口エコテック㈱」設立。

実は、資源ごみを除く家庭ごみは1人1日527gで大部分は可燃ごみ。その灰は最終処分場で埋め立てられていました。

「最終処分場はあと12年ほどで満杯になる」と言われていた1998年、山口県の一般廃棄物リサイクル率は10.6%でした。今では県下（宇部市を除く）すべてのごみ焼却灰が山口エコテック㈱で処理され、リサイクル率も30.6%と全国1位に！最終処分量も当時の約16%に抑えることに成功しています。もちろん、恋路クリーンセンターのごみ焼却灰も利用していますよ！

【日本一の処理能力！】

山口エコテック㈱は、処理したごみ焼却灰をセメントの原料にするため、有害物質の除去処理をしています。その過程で、脱ダイオキシン処理と水洗脱塩素処理を組み合わせた工程を、全国で初めて採用しました。この方式での脱ダイオキシンの能力は日本一とのこと！ここでできた“脱水ケーキ”は㈱トクヤマと宇部興産㈱へ運び“普通セメント”の原料として全量活用されています。

新型コロナ前は、遠く那覇市や世界遺産に認定された天草市など県外から資源循環を学ぶ視察や、地域環境ツアーがありました。コロナが終息した暁には、自治体主催の見学などで「より多くの人に知ってもらいたい！」とのこと。

※普通セメントとは※

山口エコテックで灰から塩分を除いたものを原料とする“普通セメント”はコンクリート中の鉄が錆びず、割れることもありません。



吉岡社長

それまで最終処分場に埋め立て、(あえて)何も見なかったのが、リサイクルをきっかけに“手間のかかる”ごみの分別が必要となりました。「他人任せではなく自らの事として、地道にそれを実行できるか？」と、ごみ焼却灰中の異物が私たちに問うているように思います。これからも、“ごみ分別”はしっかりと！お願いしますね！

【縁の下の力持ち！】

山口エコテック㈱の装置が長期間止まると、最悪、ごみ焼却炉も止まり、ひいては街中がごみだらけになってしまいます。現在社員15人、24時間体制で社会的責任、役割を担っています。なくてはならない縁の下の力持ちです！

そして、天然資源の消費抑制と最終処分場の延命化、そしてダイオキシン類の排出量を大幅に削減することに貢献しています！



←「燃えるごみ」の中にこんな金属片が混ざっていることがあるそうです

搬入と搬出の時に、トラックごと量りに乗り、車の重量を差し引いて焼却灰の重量を把握します



■DATA

【住 所】周南市晴海町 7-46
【営業時間】8時30分～17時15分
【TEL】0834-34-2935
【FAX】0834-33-3746
【定休日】土曜・日曜・祝日
【HP】<http://www.y-eco.co.jp>